

平成 29 年度

教育委員会の権限に属する
事務の管理及び執行の状況の
点検・評価報告書

(平成 28 年度事業)



平成 29 年 8 月
桑名市教育委員会

目 次

	頁
はじめに	1
教育委員会の活動について	2
教育委員会構成員（平成 29 年 3 月末時点）	2
教育委員会開催状況	2
教育委員会教育施設視察状況	4
教育委員会 その他の活動	4
平成 28 年度 施策評価シート	5
成果と分析欄の見方	6
こどもを 3 人育てられるまち	
就学前の教育・保育の充実	7
確かな学力の定着と向上	9
豊かな心の育成	11
健やかな体の育成	13
地域とともにある学校づくり	15
教育環境の整備	17
人権教育内容の充実	19
人権教育推進体制の充実	21
世界に向けて開かれたまち	
国際理解教育の推進	23
英語教育の推進	25
外国人児童・生徒の学校生活支援の充実	27
桑名をまちごと『ブランド』に	
文化財の保護・活用	29
事務事業一覧	31
総括意見	44
個別意見	44

はじめに

教育委員会制度は、合議制の教育委員会の決定に基づいて、教育長及び事務局が広範かつ専門的に教育行政事務を執行するものであることから、教育行政が適切に執行されているか否か、教育委員会自らがチェックする必要がある。

このことから、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくため、教育委員会は、毎年、教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の事務の管理執行の状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りつつ、点検・評価を行うこととし、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないと規定されている。

教育委員会では、平成 28 年度教育委員会の施策における主な事業について自ら評価を行うとともに、出口 壽氏（暁学園理事）、高木 直人氏（名古屋学院大学商学部教授）、加藤 江美子氏（桑名市 P T A 連合会）の 3 名の方から、事務の課題や今後の改善方策等についてのご意見をいただいた。

なお、平成 28 年度から生涯学習、文化（文化財の保護に関するものを除く。）、スポーツに関する事務が市長部局に移管されたため、点検・評価の対象事務でなくなった。また、新たな桑名市総合計画における「7つのビジョン—こどもを3人育てられるまち・世界に向けて開かれたまち・桑名をまちごと『ブランド』に一」にあわせ、評価シートの施策名称や成果指標を改めている。



教育委員会の活動について

教育委員会構成員（平成 29 年 3 月末時点）

教育長	近藤 久郎
教育長職務代理者	伊藤 茂一
委員	松岡 守
委員	稲垣 陽子
委員	佐藤 強
委員	松香 洋子

教育委員会開催状況

会議・開催日	審議事項・協議事項
4 月定例会 4 月 28 日（木）	≪審議事項≫ なし <協議事項> なし
5 月定例会 5 月 20 日（金）	≪審議事項≫ ・議案第 26 号 平成 28 年 6 月桑名市議会定例会提出議案に係る意見聴取について <協議事項> ・障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領（学校教育分野）について(案) ・教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検評価について
6 月定例会 7 月 1 日（金）	≪審議事項≫ ・議案第 27 号 桑名市立幼稚園利用者負担額に関する規則の一部改正について ・議案第 28 号 桑名市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部改正について ・議案第 29 号 学区外通学・区域外就学許可基準の一部改定について <協議事項> ・小学校給食業務新規委託校の決定について ・教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検評価について ・幼稚園再編に伴う対応について
7 月定例会 7 月 29 日（金）	<協議事項> ・くわなっ子教育ビジョンの作成に向けて
8 月定例会 8 月 24 日（水）	≪審議事項≫ ・議案第 30 号 平成 28 年 9 月桑名市議会定例会提出議案に係る意見聴取について <協議事項> ・全国学力・学習状況調査について
9 月定例会 9 月 30 日（金）	<協議事項> ・「(仮称) 桑名市部活動ガイドライン」について ・就学援助について

10月定例会 10月28日(金)	≪審議事項≫ ・議案第31号 平成28年12月桑名市議会定例会提出議案に係る意見聴取について <協議事項> ・「(仮称)桑名市部活動ガイドライン」について
11月定例会 11月22日(火)	≪審議事項≫ ・議案第32号 桑名市部活動ガイドライン策定について ・議案第33号 平成28年12月桑名市議会定例会提出議案に係る意見聴取について ・議案第34号 平成29年度 教職員人事異動基本方針について
12月定例会 12月26日(月)	<協議事項> ・くわなっ子教育ビジョン(案)について
1月定例会 1月18日(水)	≪審議事項≫ ・議案第1号 平成29年3月桑名市議会定例会提出議案に係る意見聴取について ・議案第2号 桑名市青少年国際交流助成事業実施要綱の一部改正について ・議案第3号 桑名市立図書館資料弁償要綱の制定について ・議案第4号 桑名市立幼稚園預かり保育実施要綱の一部改正について ・議案第5号 桑名市教育委員会文書管理規程の一部改正について ・議案第6号 桑名市教育委員会公印規程の一部改正について <協議事項> ・くわなっ子教育ビジョン(案)について ・中学校卒業式告辞(案)について ・小学校卒業式告辞(案)について
2月定例会 2月22日(水)	≪審議事項≫ ・議案第7号 教職員人事について(案) <協議事項> ・中学校卒業式告辞(案)について ・小学校卒業式告辞(案)について

3月定例会	<p>3月28日(火)</p> <p>3月28日(火)</p>	<p>《審議事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議案第8号 桑名市社会教育委員の会議規則等の一部改正について ・議案第9号 桑名石取祭保存伝承委員会要綱等の一部改正について ・議案第10号 桑名市教育委員会公印規程の一部改正について ・議案第11号 桑名市教育委員会が管理する公文書の公開に関する規則の一部改正について ・議案第12号 桑名市教育委員会が保有する個人情報の保護に関する規則の一部改正について ・議案第13号 桑名市立学校職員の過重労働による健康障害防止のための対策実施要綱の一部改正について ・議案第14号 桑名市立小学校及び中学校の就学に関する規則の一部改正について ・議案第15号 桑名市教育集会所条例施行規則の一部改正について ・議案第16号 桑名市教育委員会関係事業補助金等交付要綱の一部改正について ・議案第17号 桑名市就学援助条例施行規則の一部改正について ・議案第18号 桑名市立幼稚園利用者負担額に関する規則の一部改正について ・議案第19号 桑名市子どものための教育に関する利用者負担額に関する規則の一部改正について ・議案第20号 桑名市特定教育施設の利用者負担額に関する規則の制定について
-------	---------------------------------	---

定例会 12回

教育委員会教育施設視察状況

視察日	施設名	内容
平成28年6月10日(金)	長島中学校 長島中部小学校	防災教育授業参観 屋外避難用非常階段 視察
平成28年9月30日(金)	博物館	企画展 視察
平成28年10月28日(金)	多度中学校	授業参観

教育委員会 その他の活動

活動日	内 容
平成28年8月9日(火)	第1回桑名市総合教育会議
平成28年8月25日(木)	三重県市町教育委員会教育委員等研修会
平成28年10月18日(火)	三重の教育談義(子どもたちの「命・こころ」と向き合うために)
平成28年11月17日(木)	教育研究推進園研究発表会(明正、光陵幼稚園)
平成28年11月18日(金)	教育研究推進校研究発表会(大成小学校)
平成29年1月13日(金)	第1回市町村教育委員研究協議会(文部科学省)
平成29年2月2日(木)	第2回桑名市総合教育会議
平成29年2月3日(金)	道徳教育研究発表会(星見ヶ丘小学校)
平成29年2月17日(金)	第2回市町村教育委員研究協議会(文部科学省)

平成 28 年度 施策評価シート

- ・就学前の教育・保育の充実
- ・確かな学力の定着と向上
- ・豊かな心の育成
- ・健やかな体の育成
- ・地域とともにある学校づくり
- ・教育環境の整備
- ・人権教育内容の充実
- ・人権教育推進体制の充実
- ・国際理解教育の推進
- ・英語教育の推進
- ・外国人児童・生徒の学校生活支援の充実
- ・文化財の保護・活用

成果と分析欄の見方

3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			実績 評価	単位
				H26	H27	H28		
①	小学校英語活動における児童の意欲向上	「日ごろから生活の中で英語を使おうとしている」と回答する児童の割合	60	56.5	54.0	56.0	A	%
②	外国語行事への参加	英語キャンプへの参加人数	160	44	74	108	C	人

目標値は、平成 24 年度に設定し、平成 28 年度までの 5 カ年間の目標値です。

7つのビジョンに沿った事業展開がなされ、成果があがっているか否かについて、指標の実績（達成度）をもとに、その評価をA～Dで表示します。

実績評価

A：7つのビジョンに沿って事業展開を行い、十分な成果があがっている。

目標値に対して、90%以上成果があがっている。

B：7つのビジョンに沿って事業展開を行い、概ね成果があがっている。

目標値に対して、70%以上～90%未満の成果があがっている。

C：7つのビジョンに沿って事業展開を行い、一定の成果はあがっているものの、なお課題が残る。

目標値に対して、50%以上～70%未満の成果があがっている。

D：7つのビジョンに沿って事業展開を行ったが、期待した成果に到達していない。

目標値に対して、50%未満の成果に留まっている。

－：平成 28 年度までに事業が終了したため、実績評価にいたらなかった事業無評価として「－」を記載している。

平成 28 年度 施策評価シート

評価担当課

教育環境整備室

1 施策体系

7つのビジョン	こどもを3人育てられるまち
10年後の 目指す姿	地域の支えで、子どもを3人育てられるまちになっています。 ・子育て家庭を地域で支え、安心して子どもを3人育てられるまちとなっています。 ・「子育てをするなら桑名市へ」と言われるまちとなっています。 ・家庭、地域、行政、関係機関が連携して、子育てに取り組むまちとなっています。
事業名称	就学前の教育・保育の充実

2 施策の現状

施策の現状	公立・私立、幼稚園・保育園・保育所の枠を超えた研修や実践交流を通して、幼稚園教諭や保育士が、教育・保育のあり方について見識を深めている。加えて、公立幼稚園の再編、公立・私立の共存などの課題に取り組みながら、本市就学前教育のキャッチフレーズである「みんながつながり愛、一人ひとりの根っこを育てます」を目指し、就学前教育の充実に向けた取組を進めている。
法令・制度の変更	平成 28 年 12 月 桑名市立幼稚園条例の改正 平成 29 年 1 月 桑名市立幼稚園預かり保育実施要綱の改正
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	公立幼稚園・保育所、私立幼稚園・保育園の教諭や保育士を対象とした「乳幼児教育推進協議会研修会」を実施し、教育・保育を取り巻く今日的教育課題について、年5回の研修講座（教育講演会・実技講習会・公開保育）のほか、実際の保育の様子を参観して研修を行う実践交流会を年1回開催している。 公立幼稚園の再編では、子どもたちの社会性を育むための望ましい集団規模の確保を目指し、「桑名市就学前施設再編実施計画」に基づき、再編実施前に24園あった公立幼稚園を、平成30年度に11園に再編する経過の途中で、平成28年度末時点で、14園となるよう再編を進めた。再編統合された園では、各学年単位で見ると、20人以上の集団規模が確保され、子どもたち同士が、より切磋琢磨してかかわり合うことができています。 また、再編園の課題を把握し、解決に向けて努めるとともに、平成29年度の再編に向けて、保護者駐車場や施設改修等の整備を行い準備を進めた。



【実践交流会】

平成 28 年度は公立幼稚園の保育を参観し、実践交流を行った。公開した長島幼稚園では、「人とのかかわりを通して自分の思いを表現したり、相手の思いを聞いたりして育ち合う子どもをめざして」という研修課題を設け、再編して多くの子どもがかかわり合う機会を活かし実践している様子等が紹介された。参加者からは、「活気のある活動が多く見られた。」「再編した園の様子がよくわかった。」という意見が寄せられ、共通理解が図られた。

3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			実績 評価	単位
				H26	H27	H28		
①	乳幼児教育推進協議 会研修会への参加	研修講座・実践交流研修 会への参加者数	420	369	320	251	C	人
指標の考え方								
<p>就学前教育に携わる幼稚園教諭や保育士等が、情報の交換や共有することができる研修・交流の機会を増やすことが、保育者の資質を向上させ、就学前教育の充実につながっていくことから「乳幼児教育推進協議会研修会への参加」を指標とした。</p>								
指標の分析								
<p>研修会への参加者数が減少した要因として、講座の平日開催、研修視察の未実施（隔年実施のため28年度未実施）、再編による公立幼稚園の園数、職員数の減少などが考えられる。</p> <p>しかし、講座参加者の満足度は非常に高く、アンケートからは「発達、運動あそびをはじめ、さまざまな方面での研修に参加でき、とても勉強になった」「桑名市の子どもを育てるという共通理解をはかることができた」などの回答を得た。</p>								

4 今後の方向性

課題の 整理	<p>【研修会の開催】</p> <p>研修会について、平日に参加しやすい職場、土曜日に参加しやすい職場があるため、平成28年度に土曜日に開催していた講演会のうち1回を平日に開催してみたが、出席者は伸びなかった。今までも開催日の設定や講座の内容について工夫してきたが、引き続き、参加職員の意見を聞きながら、参加することに都合の良い開催日を調整し、ニーズの高い講座を企画・運営できるよう努める必要がある。</p> <p>【公立幼稚園の再編】</p> <p>再編した園の教育内容、施設整備、預かり保育等の課題の把握と解決に努める。また、集団規模の確保の面から、今後の園児数の推移をしっかりと把握する必要がある。</p>
今後の 展開	<p>【研修会の開催】</p> <p>教育・保育に携わる教諭や保育士の資質向上、就学前教育の充実のため、今後も引き続き研修講座を進めていく。</p> <p>研修講座の回数を増やすよりも、講座の内容を充実させる方向で進めていきたい。参加者が回答したアンケートをもとに、ニーズの高い分野での講座を設定したり、魅力的な講師を招いたり、日程を考慮して参加者数の増加を目指す。</p> <p>【公立幼稚園の再編】</p> <p>再編の効果について検証していくとともに、再編後新たに生じた課題を丁寧に解決し、今後の再編へと活かしていく。また、次年度の再編に向けてハード・ソフト両面の整備を進める。</p> <p>「子ども・子育て支援新制度」の導入により、就学前施設のあり方に変化が見られる。再編による変更点と合わせて、新制度の導入による利用者負担額の改定等の変更点も考慮し、今後の各園の園児数の推移等を把握しつつ、より望ましい教育環境となるよう努める。</p>

平成 28 年度 施策評価シート

評価担当課

学校教育課・指導課

1 施策体系

7つのビジョン	子どもを3人育てられるまち
10年後の 目指す姿	<p>安心できる環境で、子どもたちの生きる力が育っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きる力を育み、豊かな未来をひらく子どもが育っています。 ・児童、生徒が、快適で安全・安心な学校生活を送れる学習環境が整っています。 ・学校と家庭、地域が連携した社会のなかで、子どもたちが育っています。
事業名称	確かな学力の定着と向上

2 施策の現状

施策の現状	<p>くわなっ子育成方針を柱に「生きる力（の基礎）」を育み、豊かな未来を拓く子どもたちの育成に努めている。個に応じたきめ細かな指導が可能となるように人的配置を行い、少人数指導等ができる環境づくりを進めている。</p> <p>教員が児童生徒と向き合い、その実態や思いを把握することを大切にした授業づくり、学級づくりを進めることにより、確かな学力の定着と向上が図れるよう、指導主事訪問等において学校を支援している。</p> <p>確かな学力の育成のためには、教員の力量アップが不可欠であることから、教員を対象とした指導法や授業法の改善につながる各種研修会の実施、一人ひとりの教育的ニーズに対応するための特別支援教育の推進に関わる研修の充実に努めている。</p>
法令・制度の変更	<p>平成 27 年 3 月 学習指導要領の一部改正</p> <p>平成 29 年 3 月、改訂された幼稚園教育要領、小学校・中学校学習指導要領の公示</p>
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>個に応じたきめ細かな指導ができるように、過密度の高い学級を有する学校などを中心に人的配置をしてきた。</p> <p>平成 25 年度から実施してきた学級満足度調査の活用は平成 27 年度をもって終了したが、培ったスキル・経験等を活かして多様な児童生徒理解に基づく細やかな指導・支援を行った。</p> <p>また、わかる授業づくりのため作成した「くわな授業スタイル」の定着を図りつつ、更なる授業改善に向け各校への指導・支援に注力した。</p> <p>教員研修は、キャリアステージに応じた研修や今日的教育課題に応じた研修、優れた実践者を授業者として招く出前講座研修などを実施するとともに、特別支援教育についても、特別支援教育コーディネーターや担任等の役割ごとに研修会を開催してきた。</p>

<くわなっ子教育ビジョン>



<少人数指導の授業：日進小学校>



<特別支援教育講座：教育研究所>



3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			実績 評価	単位
				H26	H27	H28		
①	学習の定着度 (全国学力調査に おける評価)	算数、数学の授業が「わか る」と回答した児童生徒の 割合	85	76.8	76.8	78.3	A	%
②	学級満足度調査	市全体の満足群に位置する 児童生徒の割合	80	58.5	抽出8校 58.0	—	—	%
③	夏期教職員研修 講座参加回数	夏期教職員研修講座におけ る一人あたりの参加回数	1.5	1.1	0.9	0.9	C	回/人
④	特別支援教育講座 の参加人数	夏期研修講座のうち特別支 援教育講座への参加人数	100	85	128	186	A	人

指標の考え方

- ①算数・数学は積み上げの学習内容であるが、つまづきやすいことから、授業の分かりやすさを指標とした。
 ②学級生活の満足度が学習意欲の向上につながることから、満足群に位置する児童生徒の割合を指標とした。
 ③授業の分かりやすさは、教員の授業力・指導力に負うところが大きいことから、研修参加回数を指標とした。
 ④特別支援教育の視点に立った教員の力量が指導を左右することから、研修の参加人数を指標とした。

指標の分析

- ①目標値には達していないものの、前年度までと同じく、小中学校ともに全国平均を上回っている。
 小学校…桑名市 81.9% (全国平均 80.2%) 中学校…桑名市 74.6% (全国平均 69.4%)
 ②平成 28 年度、全市的な学級満足度調査は行っていない (平成 27 年度事業終了)。
 ③平成 27 年度から悉皆研修をなくしたことにより参加実績は伸びていないが、講座後の参加者アンケートからは満足
 度が高いという結果が出ている。参加者の校種別割合は、小学校 80%、中学校 9%、幼稚園 11%と偏りがある。
 ④特別支援教育の研修に対するニーズは年々高まっている。平成 28 年度は 4 月に障害者差別解消法が施行され“合理的
 配慮”が学校に求められるようになって、参加者数が目標値を大きく上回った。講座後の参加者アンケート満足度
 は 98.9%であった。

4 今後の方向性

課題の 整理	<p>個に応じたきめ細かな指導のための人的配置により、学習のつまづきへの速やかな対応や児童生徒の学習意欲の向上につなげることができたが、一方で、新学習指導要領の内容を具現化するための新たな対応について研究を進める必要に迫られている。</p> <p>様々な視点から児童生徒を理解しようとする仕組みを確立し、多様な児童生徒理解が進むよう努めたい。新学習指導要領が求める教育活動の全面実施に向け、引き続き、市全体で授業改善の取組や教育環境の整備を強く進めることが必要である。</p>
今後の 展開	<p>人的配置については、個に応じたきめ細かな指導の研究を活かしつつ、国や県の施策を踏まえて、新学習指導要領や今日的な教育課題に対応していく必要がある。</p> <p>平成 29 年 3 月に示した「くわなっ子教育ビジョン」を活かして、授業改善を一層進め、新学習指導要領をふまえた“主体的・対話的で深い学び”の実現に向けた研究を市全体で進めていく。</p> <p>教員研修については、教員のニーズを把握しながら、新学習指導要領の内容を具現化するために有効な研修をはじめ、桑名市の課題に即した講座等を実施していく。</p>

平成 28 年度 施策評価シート

評価担当課

指導課・人権教育課

1 施策体系

7つのビジョン	子どもを3人育てられるまち
10年後の 目指す姿	<p>安心できる環境で、子どもたちの生きる力が育っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きる力を育み、豊かな未来をひらく子どもが育っています。 ・児童、生徒が、快適で安全・安心な学校生活を送れる学習環境が整っています。 ・学校と家庭、地域が連携した社会のなかで、子どもたちが育っています。
事業名称	豊かな心の育成

2 施策の現状

施策の現状	<p>各学校では道徳教育や体験活動などの充実を図り、豊かな人間性の育成に努めている。また、子どもたちの学校生活の状況を常に把握し、子どもたち同士のつながりや居場所のある環境を整え、心身ともに健康な生活を営む態度を育てている。</p> <p>教育相談については、三重県教委の事業によるスクールカウンセラー（以下「SC」）の配置だけでなく、市独自に、不安や悩みを抱える子どもや保護者に向けた、臨床心理士などによる相談体制を整えるとともに、小学校には心の教室相談員を配置している。</p> <p>生徒指導上の困難さを抱える事案については、生活背景を踏まえ、関係機関との連携を密に図ることで改善につなげる必要性に迫られているため、学校現場へスクールソーシャルワーカー（以下「SSW」）を派遣し、教育活動の安定化を図っている。</p>
法令・制度の変更	<p>平成 27 年 3 月 学習指導要領の一部改正</p> <p>平成 29 年 3 月、改訂された幼稚園教育要領、小学校・中学校学習指導要領の公示</p>
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>道徳教育については、担当者研修会や指導主事の訪問等を通して各学校・園への指導、支援を進めている。また、平成 28 年度から 2 年間星見ヶ丘小学校を桑名市教育研究推進校として指定し、「特別の教科 道徳」の実施について先行的な研究・発信を進めている。</p> <p>教育相談においては、認定臨床心理療法士、認定臨床心理カウンセラー、特別支援教育士等による相談枠を設け、相談内容の多様化に対応している。</p> <p>平成 27 年度には三重県教委による SC の市内全小中学校配置が実現した。また、これまでも県教委の SSW を積極的に活用してきたが、平成 28 年度から桑名市でも独自に SSW を配置し、福祉的な面からの組織的支援をより充実させることができた。一方、平成 27 年度から心の教室相談員の配置時間は一律 350 時間に縮小となったものの、初期対応や見守りなどを中心に、子どもに寄り添いながら関わっている。</p>

<道徳科の研究：星見ヶ丘小学校>

研究発表会



校内研修



<心の教室：深谷小学校>



3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			実績 評価	単位
				H26	H27	H28		
①	教育相談の利用	開設した相談時間のうち、実際に利用した相談時間の割合	80	60.8	59.0	75.9	A	%
②	心の教室相談員の活用	1校あたりの年間相談件数	150	104	103	85	C	件
指標の考え方								
<p>①教育相談が充実すれば相談に応じた時間の割合が高まると考え、指標とした。いつでも相談を受けられる環境を用意するために、概ね80%台で推移させたい。</p> <p>②心の教室相談員の活用の充実は、年間相談件数に表れると考えている。</p>								
指標の分析								
<p>①前年度に比べ利用相談時間の割合が上がったのは、平成28年度からのSSW配置のために臨床心理士1名分の相談枠を減らしたことも一つの要因と考えられる。一方で、保護者等のニーズには十分にこたえた結果であると捉えている。</p> <p>②SCの全校配置やSSWの積極的な活用が進み、児童の実態に合わせたよりの確かな相談・支援体制が確立されつつある。これにより、これまで心の教室相談員が担ってきた役割を果たすようになって、年間相談件数が減少していると考えられる。</p>								

4 今後の方向性

課題の整理	<p>核家族化の進行、地域の教育力低下の中、人間関係の希薄化は子どもの関係においても進み、相談内容も多様化している。学校だけでは指導困難な事案が増えており、校種を越えた情報共有と関係機関と連携した取組によって対応することが求められている。そのために、専門的な知識とスキルを持った人材を活用し、教育・福祉・地域などの枠を越えた支援体制を構築していく必要がある。こうした中、桑名市独自にSSWを配置し、効果的に児童生徒及び学校を支援することができた。今後も、適切、かつ、早期に組織的な対応を進めることが重要である。</p> <p>平成30年からの「特別の教科 道徳」の小学校での実施に向けた対応・準備が急務である。また、平成31年度から実施となる中学校での「特別の教科 道徳」についても研修等を進め、実施の準備を急がなければならない。</p>
今後の展開	<p>複雑、かつ、多様化する学校現場の課題に対応するため、SSWやSCを効果的に活用し、組織的に支援を進める体制づくりが求められる。平成29年度から心の教室相談員の全校配置に代えて、中学校ブロック毎に小学校を巡回する人材を1名（計9名）配置し、チームの一員として当該児童の見守りや面談等に当たることとした。また、学校としての教育相談機能を高めつつ、組織的な児童生徒支援体制の確立をめざした研修等を充実させ、県教委のSSWについても、引き続き積極的に活用する。</p> <p>「特別の教科 道徳」の全面実施にむけ、研究推進校からの発信や担当者研修、学校訪問等の様々な機会を通して実践研究等を進め、道徳教育の充実を図る。</p>

1 施策体系

7つのビジョン	子どもを3人育てられるまち
10年後の目指す姿	<p>安心できる環境で、子どもたちの生きる力が育っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きる力を育み、豊かな未来をひらく子どもが育っています。 ・児童、生徒が、快適で安全・安心な学校生活を送れる学習環境が整っています。 ・学校と家庭、地域が連携した社会のなかで、子どもたちが育っています。
事業名称	健やかな体の育成

2 施策の現状

施策の現状	<p>基礎的な体力は、子どもたちの生涯にわたる健康の保持・増進に重要な役割を果たし、運動習慣を身につけることで、意欲や気力が満ち、生活習慣や食習慣にもよい影響を与える。幼児期を含め、子どもたちは、日常生活の中で体を動かすことが少なくなっているため、継続して遊びや運動に取り組む機会を充実させる。</p> <p>食育基本法の制定に基づき、各学校・園の食育が充実するよう支援、取組を進めている。</p>
法令・制度の変更	<p>平成 27 年 3 月 学習指導要領の一部改正</p> <p>平成 29 年 3 月 改訂された幼稚園教育要領、小学校・中学校学習指導要領の公示</p>
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、各学校において栄養教諭を中心に食育の充実をめるとともに、学習活動の中で、地元生産者等の招聘や生産現場の見学等を行ってきた。また、食育の生きた教材となる学校給食の充実を図るため、地場産物・郷土の食材を提供してきた。一方、教職員の食育指導の力量向上のために、研修講座を開催してきた。</p> <p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析を行い、体育授業の内容や休み時間の取組、普段の遊びなどについて、指導のポイントや指導例などを示すとともに、体育担当者研修会に三重県教委より講師を招いて実技指導講習を進めた。また、三重県教委の事業を積極的に活用し、元気アップコーディネーター等専門性の高い人材を学校に招くなどして、指導力の向上を図っている。</p>

< 中学校スクールランチ献立表 (7月裏面) >



夏休み、元気のもとは食事から!!

いよいよ7月、一学期もあとわずかです。この時期になると、暑さで食欲がなくなったり、疲れやすくなります。『栄養・早起き・朝ごはん』を心がけて、夏に負けない体づくりをしましょう!

- ★ **栄養バランスの良い3回の食事と、早めの就寝**
学校がある日休日も、食卓と朝ごはんを食べてください。朝ごはんを食べない、栄養が不足します。朝・昼・夕 どの食事も、栄養バランスを揃えることが大切です。また、朝ごはんを食べないと、脳がきちんと働かないので、日中はぼーっとして夜に目が覚める「逆型の生活リズム」になってしまいます。夜寝るのが遅いと、寝ている間に出てくる成長ホルモンの量が少なくなり、疲れやすくなってしまいます。
- ★ **夏野菜たっぷり、元気パワーをゲット!**
夏の野菜には、強い日差しや暑さには負けないために必要なビタミンなどがたくさん含まれています。トマト、きゅうり、なす、かぼちゃ、ピーマン、秋田、オクラ、モロヘイヤなどの夏野菜を毎日食べましょう。
- ★ **冷たくて甘いものに注意!**
アイスクリームやジュース、甘いお菓子などを食べ過ぎると、胃腸の働きが悪くなったり、食欲不振の原因になります。ビタミンB1が不足して、疲れやすくなったりイライラしやすくなります。

< 多様な運動部活動づくりに向けた指導内容

・方法の工夫改善の実践研究：陵成中学校>



3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			実績 評価	単位
				H26	H27	H28		
①	食育研修講座への参加	夏期研修講座のうち食育講座への参加人数	72	41	27	24	D	人
指標の考え方								
食育の推進には、教員の指導力に負うところが大きいことから、研修講座の参加人数を指標とした。								
指標の分析								
平成 26 年度から市教委が実施する初任者研修の中に講座を位置づけて食育の基礎研修として実施している。毎年、初任者を対象に行うことで、教職員全体としての食育に関する指導力の底上げにつながる意義がある。								

4 今後の方向性

課題の 整理	<p>「食育」については、給食の時間を利用して担任等による食事やマナー等の指導を進める一方、栄養教諭中心に栄養面や食生活に関する学習を進めている。また、地元生産者等の活用を進めているが、新たな人材発掘が課題である。</p> <p>平成 28 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、小中学校で男女ともに前年度の数値を上回り、小学校男子では初めて全国値を上回り、中学校でも年々数値が上昇傾向にある。一方で、小学校女子では全国値を大きく下回った。こうした児童生徒実態の改善に向け、教員の指導力の向上がさらに必要である。</p> <p>運動場で思い切り体を動かせる環境を整えたり、外遊びを促す取組を設定したりするなど、子どもたちが運動習慣を身につけられるような工夫が学校として必要である。</p>
今後の 展開	<p>食育の推進については、地元生産者等の活用を進めるとともに、食育の学習については栄養教諭を中心としながら、引き続き教員全体の指導力向上のための研修を行う。</p> <p>体力・運動能力の向上については、体育担当者会での実技指導講習や三重県教委事業の活用をさらに充実させながら、指導教材や指導方法の支援等を進めるとともに、優れた実践校の紹介を積極的に行う。</p>

平成 28 年度 施策評価シート

評価担当課

指導課

1 施策体系

7つのビジョン	子どもを3人育てられるまち
10年後の 目指す姿	<p>安心できる環境で、子どもたちの生きる力が育っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きる力を育み、豊かな未来をひらく子どもが育っています。 ・児童、生徒が、快適で安全・安心な学校生活を送れる学習環境が整っています。 ・学校と家庭、地域が連携した社会のなかで、子どもたちが育っています。
事業名称	地域とともにある学校づくり

2 施策の現状

施策の現状	<p>保護者や地域住民の方々に「スクールサポーター」として登録いただき、子どもたちの見守りをはじめ、教育活動における地域の特徴を活かした様々な支援をいただいている。</p> <p>民生委員や自治会連合会役員などの地域の方々に各学校・園の「学校評議員」となってもらい、学校・園運営についてのご意見をいただいている。</p> <p>学校自己評価の客観性・透明性を高めるために保護者や「学校評議員」などによる学校関係者評価を実施している。</p> <p>「特色ある学校・園づくり」を推進するための事業費については、各学校・園に事業実績及び事業計画などについて校長・園長からの聞き取りを進め、予算を決定し、業務委託してきたが、平成28年度から委託金から交付金とした。</p>
法令・制度の変更	<p>平成27年3月 学習指導要領の一部改正</p> <p>平成29年3月、改訂された幼稚園教育要領、小学校・中学校学習指導要領の公示</p>
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>スクールサポーターには、地域の産業や伝統文化など地域毎の特色にあわせて各学校・園における教育活動で活躍していただいている。</p> <p>学校評議員については、全体研修会を設けて見識を広めていただいている。平成28年度は、県教育委員会と連携しながらコミュニティ・スクールの推進について学習会を行うとともに、各学校・園の実践情報交流を行った。学校評議員会をはじめ、機会あるごとに、今日的な教育課題や学校の課題等について意見をいただいている。</p> <p>各学校・園においては、「特色ある学校・園づくり」を推進するための事業費を活用し、継続した伝統的な取組や、子どもの実態をふまえた新たな取組が行われている。</p>

<ふじっ子まつり：藤が丘小学校>

新西方郵便局の方と絵手紙づくり



<地域の方との合同防災訓練：長島北部小学校>

初動訓練：地域の方を招いた学校行事中に大きな地震が発生



3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			実績 評価	単位
				H26	H27	H28		
①	スクールサポーター登録者数	桑名市全体のスクールサポーター登録人数	1,000	976	1,089	1,081	A	人
②	学校評議員会の開催回数	桑名市全体の学校評議員会の開催回数	120	103	94	116	A	回
指標の考え方								
<p>①地域に開かれた特色ある学校・園であるか否かは、学校・園の教育実践に地域の方がどれだけ多く関わっていただいているかによることから、スクールサポーター登録者を指標とした。</p> <p>②学校・園が進むべき方向性について地域の願いや思いをどれだけ受け止めているかは、地域の方々の意見をいかに多くうかがっているかによることから、学校評議員からの意見聴取のための会議回数を指標とした。</p>								
指標の分析								
<p>①スクールサポーターの登録数は、2年続けて1,000人を越え、各幼稚園、小中学校で登下校の見守り、読み聞かせ、環境整備、授業や行事の支援、部活動の支援等をしていただいている。</p> <p>②学校評議員会の開催件数は、各学校・園で年間3回程度、概ね計画どおり開催されている。「学力向上」「新たな3学期制のあり方」「道徳の教科化」「土曜授業」等、多岐にわたる教育課題に対して、住民の視点から率直な意見をいただいている。</p>								

4 今後の方向性

課題の整理	<p>スクールサポーターによる授業や行事の支援については、地域学習等の語り部や家庭科の実習補助、校外学習の安全サポートなど多岐にわたり、どの学校・園においても欠かせないものとなっている。一方で、活動が次第に形式的になるなど、マンネリ化の課題も散見される。また、今日的な教育課題等への学校の新しいニーズに応えられる人材発掘も必要である。地域に根付いたより活力ある学校・園を目指すためには、今後もスクールサポーターをはじめ、地域の方々から様々な形で学校・園教育に対して支援をいただく必要がある。</p> <p>学校評議員会については、定期的な開催の中での報告的な内容に留まることなく、適切な時期に、学校・園が抱える課題について積極的に意見をいただく機会としなければならない。しかしながら、学校評議員会の開催回数に学校間で若干の差が生じており、評議員の固定化といった課題もみられる。</p>
今後の展開	<p>今後も、多様な教育活動の機会をとらえて、積極的なスクールサポーターの活用を図る。また、新学習指導要領が求める「社会に開かれた教育課程」の工夫につながる新たな活用の可能性を探っていく。</p> <p>地域とともに歩む学校づくりを進めていくためには、多様で幅広い意見を収集する工夫が必要であることから、多様な立場の学校評議員の確保に努め、学校の経営改善に活かすよう働きかけていく。また、地域や保護者が持っている学校や子どもたちへの願いを的確に捉えたり、学校・園が求める地域からの支援を適切に発信したりする双方向のやりとりを実現させるなどして、学校運営協議会の設置に向けた議論を進めながらコミュニティ・スクールの基盤を築く。</p> <p>「特色ある学校・園づくり」に関わる事業費については、小中一貫教育の推進に向けた研究と摺り合わせをしながら事業計画をより具体的に立てるよう指導するなど、さらなる効果を上げるよう努める。</p>

平成 28 年度 施策評価シート

評価担当課

教育総務課

1 施策体系

7つのビジョン	こどもを3人育てられるまち
10年後の 目指す姿	<p>安心できる環境で、子どもたちの生きる力が育っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きる力を育み、豊かな未来をひらく子どもが育っています。 ・児童、生徒が、快適で安全・安心な学校生活を送れる学習環境が整っています。 ・学校と家庭、地域が連携した社会のなかで、子どもたちが育っています。
事業名称	教育環境の整備

2 施策の現状

施策の現状	<p>本市は、幼稚園 24 園（平成 28 年度：開園 13 園）、小学校 27 校（ほか分校 1 校）、中学校 9 校（ほか分校 1 校）の園・学校施設（195 千㎡）を有しており、面積では市全体の公共施設（440 千㎡）の 45%を占めている。これまで、校舎、屋内運動場等躯体部分の耐震化を計画的に進めてきたほか、門扉、フェンスの取付けやトイレ改修など、園・学校施設の安全性や快適性の確保に努めてきた。また、東日本大震災の災害を教訓として、校舎屋上を津波や浸水被害に対する一時避難所とする整備も進めてきた。一方で、こうした教育施設のうち約 43.7%（85 千㎡）で建築後 40 年が経過しており、施設・設備の老朽化による維持補修件数が増加しているほか、それぞれの改修費も増大する状況にある。</p>
法令・制度の変更	
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>学校の門扉、周囲のフェンスの取付け・改修は、平成 24 年度で全中学校への施工を完了し、小学校では 27 校中 16 校への整備を完了している（平成 28 年度は工事なし）。</p> <p>平成 21 年度から、老朽化対策として、国の学校施設環境改善交付金を活用し、トイレ改修（洋式化・多目的トイレ設置等）を進めている。平成 26 年度に全中学校の改修を完了し、小学校では平成 28 年度に多度中小で一部施工（多目的トイレ設置等）し、現在 27 校中 18 校が改修済となっている。</p> <p>平成 24 年度から平成 26 年度において、地震・津波対策として、国の防災機能強化交付金を活用し、浸水予想区域全ての小中学校に屋上フェンスを整備し、長島地区の全ての小学校は屋上への屋外避難用非常階段を整備した。</p> <p>また、校舎等の非構造部材の耐震化を進め、校舎や避難所となる屋内運動場へガラス飛散防止フィルムの施工を行ってきたが、平成 28 年度当初、国の補助採択が得られず整備は進んでいない。現在、避難所となる屋内運動場へは全小中学校 37 校中 19 校が取付けを完了している。</p>

多度中小学校 トイレ一部改修



体育館



体育館



校舎



校舎

3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			実績 評価	単位
				H26	H27	H28		
①	門扉、周囲のフェンスの取付け	小学校門扉設置済校数 (全 27 校中)	21	15	16	16	B	校
②	老朽化対策・環境改善・トイレ改修	トイレ改修実施済校数 (全 37 校中)	30	26	27	27	A	校
③	地震・津波対策	屋内運動場ガラス飛散防止フィルム取付け校数 (全 37 校中)	21	17	19	19	A	校

指標の考え方

市立幼稚園、小・中学校の校舎、屋内運動場躯体の耐震化は完了していることから、防犯対策や環境改善対策、地震・津波対策等の安全対策を実施した学校数を指標とした。

指標の分析

小学校門扉は、毎年 2 校の設置目標であったが、予算配分の中で防災対策やトイレ改修を優先したため、平成 27 年度は 1 校、平成 28 年度は未実施となっている。

平成 28 年度のトイレ改修は、小学校 1 校において、国の補助採択が得られた障害児対応の整備を一部のみ行ったため、実績にはカウントしていない。

ガラス飛散防止フィルムの取付けについては、国の当初予算で補助採択が得られなかったため、平成 28 年度は未実施となっている。

※ 実績については、改修済校の累計数

4 今後の方向性

課題の整理	<p>多くの学校で施設全般が老朽化しており、給排水設備、消火・防火設備等、施設の根幹を成す部分の修繕が必要となっている。計画的な予防保全を進める必要があるが、施設全般に老朽化が激しく、対処療法的な事後修繕での対応となっている。また、非構造部材（外壁、内壁、梁、照明器具等）の検査、対策及び放送設備の更新が必要である。</p> <p>国庫補助事業で進めてきたトイレ改修事業については、国の当初予算で補助採択された 1 校で平成 28 年度に一部施工し、補正予算で補助採択された事業予算を繰越し、平成 29 年度に施工予定である。近年は、国の予算規模が縮小傾向にあることから、補助採択が得られにくくなっており、改修等の計画立案が困難な状況が続いている。</p>
今後の展開	<p>防犯対策としての門扉設置については、学校側からのニーズ等も検証しながら進めていく。</p> <p>トイレ改修やガラス飛散防止フィルムの取付けについては、国庫補助対象事業であるため、国の動向を注視しながら進めていく必要がある。ガラス飛散防止フィルムの取付けについては、補助採択が得られない場合であっても、材料費を支給するなど P T A 活動等の協力を得ながら目標値を目指して進めていく。</p> <p>非構造部材の耐震化や老朽化対策については、多額の費用を伴う事業であるため、市の財政状況、桑名市公共施設等総合管理計画（実施計画）や学校教育あり方検討委員会の答申を受けて作成する小中一貫教育の計画等を勘案して進めていく。</p> <p>施設管理者として、子どもたちのより豊かな学びと健やかな育ちの実現に向けて適切な環境づくりに努め、各学校の実情に照らし合わせながら、限られた財源の中で優先順位を付け目標値を目指して進めていく。</p>

平成 28 年度 施策評価シート

評価担当課

人権教育課

1 施策体系

7つのビジョン	子どもを3人育てられるまち
10年後の 目指す姿	一人ひとりが互いを認め合い、行動していきます。 ・子どもたち一人ひとりが自分の大切さやほかの人の大切さを認めることができ、それがさまざまな状況で態度や行動に表れるようになっていきます。
事業名称	人権教育内容の充実

2 施策の現状

施策の現状	<p>市内中学校ブロック（9ブロック）において、同和教育を柱とした「人権尊重の学校づくり・地域づくり」を目指して、保護者、地域及び関係機関（PTA、各地域の人権啓発推進会、高等学校等）と連携・協働した学習活動を行っている。また、各ブロック代表者の交流会を年2回開催し、各ブロックの計画と実践の情報交流及び共有を行っている。</p> <p>各中学校ブロックの教職員は、人権に関する授業公開や、自分と「部落問題」との出会い、カリキュラム等の実践交流を通して、積極的に幼小中の連携を深めている。</p>
法令・制度の変更	<p>三重県人権教育基本方針（平成 21 年 2 月改定）</p> <p>桑名市人権教育基本方針（平成 27 年 3 月策定）</p>
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>人権感覚豊かな人づくりを地域社会の中で進めるために、保護者・地域の方々への啓発を意図した学習会や研修視察、講演会等、参画型活動の取組を行っている。</p> <p>事業実施にあたっては、多くの方が人権をより身近な問題として捉え、考えられるよう、「中学校区人権教育推進協議会だより」を全戸配付した。また、「話し合い活動」を講演会等の中で小グループで行うなど、工夫した取組を進めている。</p> <p>各学校における人権教育は、児童生徒の課題に基づく推進計画を立てて実践されており、人権に関する授業や行事の公開を保護者だけでなく地域の人やブロック内の他校教職員にも案内し、教職員の研修をより深めながら、子どもたちの差別解消への意欲と実践力の向上を図っている。</p>

【講演会の様子】



【広報紙】

陽和中学校区人権教育推進協議会広報

2016 年度 第 3 号
3 月発行
事務局担当
城南小学校

陽和中学校区だより

2016 年度 陽和中学校区人権コンサート

12月9日（金）に、ジャムスタンマジックをお招きし、日進小学校体育館で人権コンサートを行いました。

ジャムスタンマジックは「音楽のある街をつくりたい！」と願うメンバーが集まり、2006年に結成されたアコースティックバンドです。現在は、南アフリカ共和国での生活をきっかけに、世界5カ国を旅したボーカル&鍵盤ハーモニカを担当する eriko さんと、軽快で独特の心地よいリズムを生み出すパーカッションを担当する横溝あつしさんのお二人で活躍されています。当日は、キーボードを担当するサポートメンバーの方を含めて、三人で演奏をしてくださいました。

最後に、それぞれの学校の代表から、人権に関わる学習内容や自分の人権に関する思いが発表されました。人権学習で学んだこと、自分が考えたことなど、それぞれの思いを伝えることができました。

○子どもたちの感想より

- ・人権っていったいどんなことなのかな、と考えた。僕たち子どもでもできること、それは自分を大切にすること、そして周りのみんなも大切にすることなんだと思う。そんな小さなこと、でもとても大事なことができていれば、きっと世の中は平和なんだと思う。
- ・eriko さんに「本当の貧しいって何だろう」と聞かれた時、僕は、家も友だちも金も家族もない人だと思いました。だけど、本当に貧しいというのは水もない。明日をどう生きるかを考えている人だと知りました。それを聞いてかわいそうだったし、その子たちを助けてあげたいと思いました。
- ・今はインターネットがあって、いろんな情報があるけど、その場所へ行って、自分の目で見て匂いを鼻でかいでみないとわからないということを学びました。
- ・歌声に迫力があって、すごいと思いました。知っている歌もあって楽しめました。

3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			実績 評価	単位
				H26	H27	H28		
①	話し合い活動実践 数	人権啓発推進会等との話し 合い活動を実践するブロック 数	9	7	7	9	A	ブ ロ ッ ク 数
指標の考え方								
<p>子どもの人権意識に影響するのは周囲の大人の意識であることから、大人の意識変革の機会となる話し合い活動を実践するブロック数を指標とした。</p>								
指標の分析								
<p>差別の問題に関する話し合い活動は、人権意識の向上と意識改革の機会となり、校区の人権課題を解決するために有効である。各中学校区では、参加者の増加を目指すと共に、ワークショップ等を取り入れ、話し合い活動の内容についても工夫を凝らしており、今年度は全ブロックでの取組が行われた。今後も、話し合い活動の良さを地域にアピールし、参加者の確保と増加に努めていく。また、話し合い後には、それぞれが差別の解消に向けて行動を起こしていけるようにさらなる啓発を進めていきたい。</p>								

4 今後の方向性

課題の 整理	<p>取組の内容を見てみると、人権講演会や人権コンサート等への参加者は多数集まるものの、話し合い活動が中心に計画されていると参加者数がやや減少してしまう傾向がみられた。それは、「自分は関係ない」「人権教育に関心がない」というより、「話し合いになるとどんな意見を言ったらよいのか自信がない」というような保護者の不安な気持ちが壁となっていると考えられる。保護者や地域が人権教育に関心を持ち、自分の問題としてまずは参加することで一歩踏み出せるような研修を企画・実施することが必要である。子どもの人権意識に大きく影響するのは大人の意識、特に保護者の意識である。保護者の人権意識をどのようにつかみ、啓発を広げていくかに課題が残る。</p>
今後の 展開	<p>話し合いに参加して良かったと思えるように内容や形式について推進協議会で十分協議し、保護者や地域の方々と人権問題について共に話し合い、学び合えるような学習活動にしていく。また、保護者同士も支え合い声をかけ合える信頼関係をつくれるように、各ブロックで保護者・地域を交えた日々の活動に取り組む。保護者が声を掛け合い、誘い合ってまずは参加をしてもらうための工夫を進めていく。</p> <p>現状では学校が主体で運営している推進協議会を、将来的には保護者・地域が主体となり、地域の課題を明確にして積極的に運営していけるよう工夫していく。</p> <p>これまで、各ブロックにおいて、話し合い活動を取り入れたかどうかを指標として、保護者や地域の方々の人権意識の向上を図ってきた。今年度、全ブロックでの活動が定着したことを受けて、今後は、より多くの保護者や地域の方々の参加を目指す。保護者や地域の方々の参加者数を指標として、より広く啓発を進めていくことを考えていきたい。学校・地域・家庭、各種団体や関係諸機関等が連携・協働し、保護者・地域に広く人権啓発を行い、引き続き人権文化の構築を目指す。</p>

平成 28 年度 施策評価シート

評価担当課

人権教育課

1 施策体系

7つのビジョン	こどもを3人育てられるまち
10年後の 目指す姿	一人ひとりが互いを認め合い、行動していきます。 ・子どもたち一人ひとりが自分の大切さやほかの人の大切さを認めることができ、それがさまざまな状況で態度や行動に表れるようになっています。
事業名称	人権教育推進体制の充実

2 施策の現状

施策の現状	<p>これまでの同和教育の理念と成果をふまえた経験年数の少ない教員向けの研修講座として、「出会いから自分を見つめる研修」と「授業づくり研修」を実施し、人権教育推進の核となる人材を育成することにより、人権感覚あふれる学校づくりを進めている。</p> <p>深谷教育集会所において、広く市民（小中学生と引率の保護者）に啓発を行い、人権問題に対する意識向上を図るため、平成14年度から「人権文化構築事業 kizuki」を実施している。教育集会所に集うことで、人権について考えるだけでなく、教育集会所の設置や開催する各種講座の意義等を伝える機会にもなっている。事業の案内・募集は、市内小中学校を通して行うとともに、市広報や市ホームページにも掲載し、地域・市民への周知を図っている。</p>
法令・制度の変更	<p>三重県人権教育基本方針（平成21年2月改定）</p> <p>桑名市人権教育基本方針（平成27年3月策定）</p>
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>「出会いから自分を見つめる研修」では、校長推薦の6名の教員が受講し、「障害者の人権」「在日韓国・朝鮮人の人権」「部落差別の問題」について講師との出会いから学びを深めた。「授業づくり研修」では、担当指導主事が校長推薦の3名の教員に個別指導を行い、児童生徒の背景も踏まえて差別をとらえる視点を学ぶとともに、授業の実践交流を通して「なかまづくり」のより実践的な研修を行った。</p> <p>福祉体験講座（車椅子、点字、手話体験）、多文化共生講座（中国、カナダ、フランス、タイ、ブルガリア、韓国等の文化に学ぶ講座）を合わせて12回実施した。講座では、体験して気づいた学びを共有し、違いを豊かさを感じるとともに、自分の生き方につなげて考えることができた。毎回の講座で教育集会所の設置意義や人権文化尊重の大切さを伝えるとともに、参加者同士のつながりが地域ネットワークとして築けるようにしている。</p>

【教育集会所人権文化構築事業 kizuki】

「フランスの文化に学ぶ」の様子 8月25日（木）

桑名市内でフランス語教室をしてみえる方を講師に迎え、フランスの文化や生活、自然などについて、クイズを交えながら楽しく学びました。フランス発祥のスポーツ「ペタンク」をみなさんと楽しんだり、ミニクロワッサンをおいしくいただきました。フランスの文化に触れるとともに、改めて日本を見つめなおす機会にもなりました。



3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			実績 評価	単位
				H26	H27	H28		
①	特別連続講座受講者数	特別連続講座受講者数	10	12	10	9	A	人
②	講座受講者数	小・中学生及び保護者等の講座受講者数	240	269	395	473	A	人

指標の考え方

- ①教師自身の人権意識向上や子どもの見方を中心に、より実践的研修を積むことができる研修のため、受講者数を指標とした。
- ②講座を受講していただくことが、正しいことを知り、人権意識の向上につながるため、受講者数を指標とした。近年は年間12回実施している。

指標の分析

- ①近年、経験年数の少ない教職員を対象に県が実施する研修が増えていることにより、市の講座受講者は減少しているが、内容の充実と力量の向上は維持できている。
- ②受講者数の増減はあるもののリピーターの割合が高く、来ていただいた方には本講座の良さが伝わっていると考えられる。また、教育集会所に集うことで、障害者の人権や多文化共生について考えるだけでなく、部落差別の問題を考える機会にもなっている。開催日の一部を夏休みに設定するなどの工夫をしたことで、参加者の増加につながった。

4 今後の方向性

課題の整理	<p>経験年数の少ない教員が増加し、校内で人権教育の推進リーダーとなる教員が減少している現状の中、この研修で得た力を活かして教育実践を積み上げ、受講者一人ひとりが核となって学校の人権教育を推進していく状況となるようにする必要がある。</p> <p>毎年楽しみにして申し込まれる受講者が多いこともあり、講座がマンネリ化しないよう、内容の刷新や充実を図るとともに、日曜日や夏休み期間中の開催など、多様な参加者のニーズに応えられるような開催方法を検討する必要がある。</p>
今後の展開	<p>子どもたちの人権感覚を育むためにも、前年度までの受講者が、校内の研修主任や研修推進委員、人権教育の推進担当者となって各校の取組の中心的な役割を担うことができるよう、更なる研修の充実及び受講後のフォローや管理職との連携を図る。これまで経験年数の少ない教員の参加者が多かったが、今後は、中核となる教員にも広げていきたい。</p> <p>講座内容や開催時期・曜日と受講者数の傾向を分析し、より多くの人の参加が期待できる講座運営を考えていく。また、リピーターが多いことを生かして、受講者と職員とのつながりを築き、様々な話をしながら人権意識の向上を図り、差別をなくしていくなかまの輪を広げていく。月1回程度土曜授業が実施されるため、学校生活に支障をきたさないように計画していく。</p>

平成 28 年度 施策評価シート

評価担当課

指導課・人権教育課

1 施策体系

7つのビジョン	世界に向けて開かれたまち
10年後の 目指す姿	互いの文化や考えを理解した子どもたちが交流しています。 ・国際理解を深め、国際感覚を身につけた子どもたちが、さまざまな国の人たちと交流し、自分たちの意見や考えを発信しています。 ・外国につながりのある子どもたちが夢をもち、桑名のまちでいきいきと生活しています。
事業名称	国際理解教育の推進

2 施策の現状

施策の現状	<p>桑名市内の小中学校では、外国につながりのある児童生徒が多く在籍し、日常生活の中で児童生徒自身が国際化を実感する機会が増えていると言える。各学校では、国籍や生活習慣、文化の違いを互いに認め合い、ともに生きていこうとする態度を育むために、体験学習や出会い学習などを通して国際理解教育を進めている。</p> <p>桑名市の自然や産業、歴史や文化に関わる学習や体験を深め、郷土に愛着や誇りをもち、発信していく態度を育てることが、相互の理解や尊重、友好を深めることに繋がるものとして、郷土教育にも積極的に取り組んでいる。</p>
法令・制度の変更	<p>平成 27 年 3 月 学習指導要領の一部改正</p> <p>平成 29 年 3 月 改訂された幼稚園教育要領、小学校・中学校学習指導要領の公示</p>
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>各学校では、いわゆる英語にかかわる学習とは別に、外国の人や外国語、文化などに触れる機会を充実させ、外国人児童生徒と自然に交わり、楽しく学校生活を送ることができるよう工夫している。総合的な学習の時間などを使って外国の人や食事、伝統文化、芸術などに触れる学習を実施するだけでなく、日本語以外の言語で校内の掲示等を行うなど、身近な学校生活における工夫も進められている。さらに、中学校では、修学旅行で生徒にとっては馴染みの少ない国の大使館を訪問するなど、発展的な学習も進められている。</p> <p>なお、平成 28 年度は、桑名市でのジュニアサミット開催に合わせ、小中学校において参加国の食文化を体験するサミット給食などを実施した。</p> <p>桑名の伝統文化に触れ、発信する取組としては、平成 27 年度は、桑名の千羽鶴体験をすべての小中学校で実施した。</p>

<修学旅行報告ポスターセッション：正和中学校>

<サミット給食：フランス>



マカロニグラタン
とポトフ

3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			実績 評価	単位
				H26	H27	H28		
①	異文化理解の推進	異文化交流などの出会い学習実施している学校の割合	80	—	42.1	39.5	D	%
②	多様な言語との出会い	日本語以外の言語で校内案内等がされている学校の割合	50	—	39.5	34.2	C	%
③	桑名の歴史・文化・自然の理解	出前授業を利用している学校の割合	60	—	100	55.3	A	%
指標の考え方								
<p>①異文化を理解するには“本物”との出会いが最も効果的であると捉え、出会い学習の機会を指標とした。</p> <p>②外国人児童生徒の母国語を尊重し、身近な生活を通して子ども同志が理解しあえる方法として指標とした。</p> <p>③今住んでいる桑名を理解し誇りに思うことを通して、異文化や多様な価値観を理解し尊重できるようになると考え、桑名に関する出前授業の機会を指標とした。</p>								
指標の分析								
<p>①異文化交流などの学習の実施は、全小中学校の半数弱に留まっている。</p> <p>②日本語以外の言語で校内案内等は、異文化交流などの学習実績と近い数値となっており、学習の推進が取組を後押ししていると考えられる。</p> <p>③平成28年度実績値は、桑名の千羽鶴体験も含めた桑名の歴史・文化等に関わる出前講座を利用した学校の割合であり、桑名市では半数強の小中学校において出前授業を活用した郷土教育が定着している。</p>								

4 今後の方向性

課題の整理	<p>国際理解教育の取組は、各校の実態に応じ一定のボリュームで定番化しているものと考えられる。児童生徒が異なる文化を対等なものとして認め合い、交流を通して理解し合う機会を増やしていくことが必要であるが、外国人児童生徒の在籍の多少にかかわらず充実を図る必要がある。同時に、マンネリ化を避けて、積極的に日本語や英語以外の言語でもコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度を育てる取組となるよう工夫することが大切である。</p> <p>桑名を知り、発信する機会については、人材発掘とあわせ、各校の情報交換を進めるなど、更なる工夫を重ねる必要がある。</p> <p>ジュニアサミットの「レガシー」については、ポストジュニアサミットの取組を市全体で、あるいは各学校の実態にあわせて発展させていく必要がある。</p>
今後の展開	<p>国際理解教育の充実に向け、多文化共生や国際理解を推進する人材・NPO団体等を周知するなど、学習・取組の支援を進めるとともに、関連する郷土教育の推進を図るため、平成27年度に教育研究所で作成した「見る・知る 桑名の歴史」の活用を促すなどの学習支援を進めていく。</p> <p>なお、ポストジュニアサミットの取組として、ポストジュニアサミット給食を実施するとともに、海外からの教育旅行の受け入れに協力をしていく。</p>

平成 28 年度 施策評価シート

評価担当課

指導課

1 施策体系

7つのビジョン	世界に向けて開かれたまち
10年後の 目指す姿	互いの文化や考えを理解した子どもたちが交流しています。 ・国際理解を深め、国際感覚を身につけた子どもたちが、さまざまな国の人たちと交流し、自分たちの意見や考えを発信しています。 ・外国につながりのある子どもたちが夢をもち、桑名のまちでいきいきと生活しています。
事業名称	英語教育の推進

2 施策の現状

施策の現状	<p>平成 23 年度から小学校において現在の学習指導要領が全面実施となり、5 年生と 6 年生で年間 35 時間の「外国語活動」が必修化された。桑名市では、「英語活動」として、音声を中心に英語に慣れ親しませる活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標に授業を行っている。</p> <p>平成 26 年度から外国の方とふれあいながら英語に親しむ機会として、夏季休業中を活用して、小学校 5 年生以上を対象に英語キャンプを実施している。</p>
法令・制度の変更	<p>平成 27 年 3 月 学習指導要領の一部改正</p> <p>平成 29 年 3 月、改訂された幼稚園教育要領、小学校・中学校学習指導要領の公示</p>
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>小学校では、ALT や JTE を活用して、英語の発音や基本的な表現に慣れ親しみながら、コミュニケーション能力の基礎を育む学習を進めている。また、多くの小学校で、1・2 年生から英語の発音や基本的な表現に触れる機会を設けている。</p> <p>中学校では、ALT を各校に派遣し、ネイティブの英語に触れながら、英語教育の充実を図っている。</p> <p>英語キャンプでは、進んで英語でコミュニケーションをしようとする場面を設けるなどして、児童生徒がより英語を身近に感じられるよう工夫している。平成 28 年度は、希望者全員が参加できるよう前年度より定員を増やした。</p>

<英語キャンプ>



<小学校英語活動、英語ルーム：城南小学校>



3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			実績 評価	単位
				H26	H27	H28		
①	小学校英語活動における児童の意欲向上	「日ごろから生活の中で英語を使おうとしている」と回答する児童の割合	60	56.5	54.0	56.0	A	%
②	外国語行事への参加	英語キャンプへの参加人数	160	44	74	108	C	人
指標の考え方								
<p>①小学校英語は、コミュニケーション力を高めるには英語に慣れ親しませることが大切であるため、「日ごろから生活の中で、英語を使おうとしている」と回答する児童の割合を指標とした。</p> <p>②コミュニケーションのツールとして英語を積極的に活用する児童の人数として、英語キャンプ参加人数を指標とした。</p>								
指標の分析								
<p>①半数以上の児童が、日常の生活で英語を使おうとしており、英語に対する興味・関心は高い。</p> <p>②英語キャンプ参加者は年々増えており、平成28年度、100人を超えた。児童生徒・保護者の関心は引き続き高いと考えられる。</p>								

4 今後の方向性

課題の整理	<p>小学校における英語教育の早期実施・教科化、中学校での英語教育の充実に向けて、小・中・高等学校の系統性を踏まえた教育内容の充実と教員の指導力向上が求められている。とりわけ、教員の英語力の向上は大きな課題となっている。</p> <p>「外国語活動が楽しい」と考えている児童が9割近くいることから、日常生活の中で英語を使う具体的な環境や場面づくりが整えば、英語を使おうとする意識もより高まると考えられる。</p> <p>英語キャンプへの関心が高まる中、各学校や地域において、より多くの子どもが英語体験をできるよう、これまでの経験をもとにした工夫が必要である。</p>
今後の展開	<p>教員の英語指導力の向上については、国や県による研修も積極的に活用しながら、市として計画的に研修会を設定する。また、外国語を使ったコミュニケーション能力を効果的に育成するために、小中代表英語教育協議会を立ち上げ、小学1年から中学3年までの9年間を通じた桑名市英語教育プラン（仮）を策定するなどして、発達段階に応じた英語指導モデルを研究、構築していく。</p> <p>英語を使う環境設定については、日常的な英語ルームの設置やALT訪問時の昼休みや放送など活用した工夫などについて、市内外から情報収集を進め、共有を図る。</p> <p>英語キャンプについては、興味のある児童生徒全員に対応できるよう工夫するとともに、その成果を市全体に還流するなかで、日常的に英語を使おうとする子どもの育成に向けた各学校や地域における取組の一助としていく。</p>

平成 28 年度 施策評価シート

評価担当課	人権教育課
-------	-------

1 施策体系

7つのビジョン	世界に向けて開かれたまち
10年後の 目指す姿	互いの文化や理解した子どもたちが交流しています。 ・国際理解を深め、国際感覚を身につけた子どもたちが、さまざまな国の人たちと交流し、自分たちの意見や考えを発信しています。 ・外国につながるのある子どもたちが夢をもち、桑名のまちでいきいきと生活しています。
事業名称	外国人児童・生徒の学校生活支援の充実

2 施策の現状

施策の現状	日本語指導が必要な外国人児童生徒が在籍する学校に、日本語指導や通訳等のできる国際化対応教員、外国人児童生徒教育推進非常勤協力員等を配置する等して、学習支援や相談活動を行っている。また、学校と保護者をつなぐため通訳・翻訳の支援も行っている。 夏季休業中には、市内在住外国人児童生徒が一堂に会して学習する「ガンバチアンド」を行っている。また、「外国人児童生徒交流会」を行い親睦も深めている。 日本生まれの外国人児童生徒が増え、定住を希望する保護者も増加している。進路保障の取組として、市内の中学生の外国人児童生徒を対象に、6月に「進路ガイダンス」を行っている。
法令・制度の変更	
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	「ガンバチアンド」は、9日間行い、参加人数は41人だった。「ガンバチアンド」に來られない外国人児童生徒のために在籍校で学習支援を行った学校もある。また「外国人児童生徒交流会」には26人が参加し、言語に関するゲームや、軽い運動を通して交流を深めた。 「進路ガイダンス」には10人の中学生の参加があり、日本の高校の教育課程や学習内容・入学の方法等について説明し、6カ国の言語別資料も配布した。高校へ進学した先輩から話を聞くことにより、進学への意欲につながった。また、進学への不安を感じている外国人児童生徒や保護者に対する個別の相談も行ったことで、日本の高校への進学に繋がった。







3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			実績 評価	単位
				H26	H27	H28		
①	必要な指導・支援を受けた対象児童生徒の割合	必要な指導・支援を受けた対象児童生徒数／日本語指導が必要な対象児童生徒数	100	100	100	100	A	%
②	ガンバチアンドに参加した対象児童生徒の割合	学習会参加者数／日本語指導が必要な対象児童生徒数	50	36.3	40.6	59.8	A	%
③	進路ガイダンスに参加した対象中学生の割合	進路ガイダンス参加者数／日本語指導が必要な対象中学生の生徒数	50	35.0	65.2	54.3	A	%

指標の考え方

外国人児童生徒が、夢をもち、いきいきと生活できるよう、②「ガンバチアンド」で学習面や互いのつながりの強化を図ったり、③「進路ガイダンス」で生活面や学習面等において早期からの準備や日本での進路選択の幅を広げたりするため、①必要な指導・支援を受けた対象児童生徒数／日本語指導が必要な対象児童生徒数、②、③参加者数／日本語指導が必要な対象児童生徒数を指標とした。

指標の分析

必要な指導・支援を受けた対象児童生徒数／日本語指導が必要な対象児童生徒数とその保護者の対応も含めたものとする。「ガンバチアンド」の指標は、日本語指導が必要な小中学生の対象児童生徒数の半数の参加者 50%を目標値とする。また「進路ガイダンス」の指標は、日本語指導が必要な中学生の対象生徒数の参加者 50%を目標値とする。

日本語指導が必要な対象児童生徒に対して必要な指導・支援に努めているが、一人ひとりの実態が異なることから指導・支援の工夫が常に求められる。

4 今後の方向性

課題の整理	<p>日本語指導が必要な対象児童生徒は増加傾向にあり、また多言語化、分散化しているため、多様な支援に対応できるよう、検討していく必要がある。</p> <p>日本での進学を希望する児童生徒、保護者が増えてきているが、交通面や日程面等で参加できないケースもあり、より多く参加できるように開催場所や開催日を増やすなど、検討する必要がある。</p>
今後の展開	<p>各学校において、日本語指導が必要な児童生徒も含めた授業づくりの工夫、なかまづくり等の指導方法も含めた研修の充実や、国際化対応教員、外国人児童生徒教育推進非常勤協力員との連携を図る。</p> <p>日本語指導が必要な児童生徒がいる学校において、該当児童生徒と保護者にガンバチアンドや進路ガイダンスを丁寧に案内してもらい、より多くの参加となるよう促していく。</p> <p>日本での高校進学を希望する生徒が増えていることから、高校からの具体的な進路情報の提供等内容の充実を図り、外国人児童生徒の進路選択の意欲を高めることをめざして運営していきたい。</p>

平成 28 年度 施策評価シート

評価担当課

商工観光文化課

1 施策体系

7つのビジョン	桑名をまちごと『ブランド』に
10年後の 目指す姿	芸術や歴史・スポーツに親しむ人が増えています。 ・多くの文化財がある魅力あるまちとして、たくさんの人に行ってみたいと思われるまちになっています。
事業名称	文化財の保護・活用

2 施策の現状

施策の現状	<p>本市が有する文化財を次の世代に自信と誇りを持って引き継ぐため、文化財の調査・保存に努めている。文化財の調査で得られた様々な情報・成果等を学校や現地に赴き、出前講座を行っている他、十六夜コンサート、ヒメタイコウチやイヌナシの観察会を行っている。</p> <p>埋蔵文化財発掘調査事業は、文化財保護法に基づき、開発等が行われる際、事前の試掘・発掘調査を行っている。</p> <p>文化財保存事業では、公益財団法人諸戸財団所有の諸戸家住宅・諸戸氏庭園の保存修理（平成 20 年度～平成 32 年度予定）や石取祭の祭車の保存修理、文化財掲示板の修理及び文化財標識の設置等を計画的に行っている。</p> <p>また、市内で保有・保管されている文化財の調査も継続して行っている。</p>
法令・制度の変更	文化財保護法
施策に対する これまでの 取組・進捗状況	<p>埋蔵文化財発掘調査事業は、桑名城下町遺跡をはじめとする市内遺跡において発掘調査を実施し、出土品の整理や測量調査を行っている。28 年度には、遺跡内での土木工事にかかり 80 件の届け出があり、その内 8 件について発掘調査を行った。発掘で得られた成果などをもとに、学校への出前講座を行い 1,670 人が受講した。</p> <p>文化財保存事業は、諸戸家住宅、諸戸氏庭園で構造物の部分解体や構造補強を進めたほか、国庫補助事業による市指定有形民俗文化財西船馬町石取祭車修理計画の最終事業となる漆塗り修理、多度のイヌナシ自生地保護計画の策定を行った。これらの事業にあたっては、専門家を入れた委員会を設け、指導を得ながら行っている。</p> <p>ヒメタイコウチやイヌナシは地元の保存会と連携し、観察会を行った。</p>

【ヒメタイコウチ観察会】



【イヌナシ観察会】



3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			実績 評価	単位
				H26	H27	H28		
①	十六夜コンサート 入場者数	重要文化財「六華苑」十六夜 コンサートの入場者数	400	447	287	192	D	人
②	嘉例川生きもの観察 会参加者数	ヒメタイコウチ観察会参加者 数	60	65	63	74	A	人
③	イヌナシ自生地の保 全活動参加者数	国指定天然記念物「多度のイ ヌナシ自生地」保全活動参加 者数	100	127	103	92	A	人
④	文化財出前講座	出前講座の受講者数	4,000	1,802	1,963	1,670	D	人

指標の考え方

- ①重要文化財「六華苑」の活用及びPR事業として、平成8年から開催している十六夜コンサートの入場者数を指標として設定した。
- ②③天然記念物のヒメタイコウチやイヌナシは、地元の方と協力して保護施策を進めており、毎年開催している生きもの観察会等への参加者数を指標として設定した。
- ④文化財を活用し、文化財保護や文化財を通じた地域の歴史についての理解向上を図るために文化財出前講座を開いているため、その受講者数を指標として設定した。

指標の分析

- ①平成27年度からコンサート開催回数が2回から1回となったため、入場者が減少した。
- ②毎年、目標数を超える参加者を得ている。
- ③参加者数の増減はあるが、目標値に近い数値を維持している。
- ④従来の「出張歴史講座」から「文化財出前講座」へと模様替えし、テーマ数を減らしたため受講者が減少した。

4 今後の方向性

課題の 整理	<p>文化財の調査を継続して行い、指定文化財の増加（現在167件：国指定・登録22件、県指定35件、市指定110件）や昇格を図っていく必要がある。</p> <p>文化財の修理は慎重に行う必要があるため、時間と費用がかかる傾向がある。諸戸家住宅の修理事業が平成20年度から始まり平成32年度まで行われることになっており、平成29年度からは、最も重要な主屋の解体修理工事が行われる。</p> <p>また、喫緊の課題として旧諸戸家住宅（六華苑）の耐震化があげられる。耐震化にあたっての解体修理をしていく上で、洋館の地下構造をどのように保存するかという問題も存在する。こうした懸案を解決していくためには、建造物の専門的な知識が欠かせず、建築を専門とする担当者の配置が望まれる。</p>
今後の 展開	<p>文化財の調査を行うとともに、これらを守るだけでなく、市民の方はもちろん多くの方に桑名市の魅力として知っていただくための機会を提供していく。</p> <p>文化財の価値を担保した修理を進めるために、国、県、所有者と連携を図りながら事業を進める。</p>

事務事業一覧

事業名称(就学前の教育・保育の充実)

事務事業名	平成28年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成26年度	平成27年度	平成28年度
乳幼児教育推進事業	803	研修講座・実践交流研修会・研修視察の回数【回】	6	7	6
		研修講座・実践交流研修会・研修視察の参加人数【人】	369	320	251
学校・園再編推進事業	3,448	各クラス20人以上の園児を確保している桑名市立幼稚園の割合【%】	16.7	38.9	40.0
子ども・子育て支援事業計画策定事業	—	「子ども・子育て支援事業計画」策定までの進捗状況【%】	100	—	—
私立幼稚園就園奨励費補助事業	130,942	桑名市内から私立幼稚園に通っている園児のうち保育料減免園児数【人】	936	985	989
		園児1人あたり補助金額【千円】	124	129	132
幼稚園一般管理運営事務	8,390	予算執行率【%】	94.3	84.0	80.6
幼稚園管理備品購入事業	1,048	購入備品納入園数【園】	19	15	13
幼稚園教材・教具購入事業	8,317	園児1人あたり購入額【千円】	17	16	15
		市立幼稚園1園あたり購入額【千円】	467	580	639
幼稚園障害児介助事業	22,500	保育支援員1人あたりの障害園児数【人】	2.1	2.4	2.7
幼稚園人事管理運営費	9,634	幼稚園教諭充足率【%】	100	100	100
合計	185,082				

事務事業一覧

事業名称(確かな学力の定着と向上)

事務事業名	平成28年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成26年度	平成27年度	平成28年度
小学校一般教材・教具購入事業	42,725	児童1人あたり購入額【千円】	5.8	5.5	5.5
		市立小学校1校あたり購入額【千円】	1,653	1,592	1,582
小学校障害児介助事業	76,326	学習支援員1人あたりの特別支援対象児童数【人】	3.4	3.4	3.7
小学校図書館図書充実事業	2,047	小学校図書館図書数標準値達成校率【%】	100	100	100
		未達成校数【校】	0	0	0
小学校特別支援教育就学奨励事業	5,803	就学支援を受けた児童数【人】	174	185	195
		就学支援を受けた児童1人あたりの支援額【千円】	30	30	30
小学校特別支援学級用教材・教具購入事業	483	児童1人あたり購入額【千円】	3.8	2.5	1.8
		特別支援学級1学級あたり購入額【千円】	15.8	10.7	7.5
小学校理科教育振興備品購入事業	1,119	備品購入校数【校】	5	5	5
中学校一般教材・教具購入事業	22,520	生徒1人あたり購入額【千円】	5.8	5.8	5.6
		市立中学校1校あたり購入額【千円】	2,609	2,603	2,502
中学校障害児介助事業	41,792	学習支援員1人あたりの特別支援対象生徒数【人】	4.7	4.3	4.3
中学校図書館図書充実事業	2,210	中学校図書館図書数標準値達成校率【%】	100	100	100
		未達成校数【校】	0	0	0
中学校特別支援学級用教材・教具購入事業	186	生徒1人あたり購入額【千円】	2.0	3.9	1.4
		特別支援学級1学級あたり購入額【千円】	8.6	17.7	6.6
中学校特別支援教育就学奨励事業	3,064	就学支援を受けた生徒数【人】	52	58	71
		就学支援を受けた生徒1人あたりの支援額【千円】	41	42	43
中学校理科教育振興備品購入事業	880	備品購入校数【校】	3	3	3
「確かな学力」向上非常勤講師配置事業	14,069	講師配置学級の教師・講師1人あたり児童数(3～6年生)【人】	25	25	27
学力向上推進事業	24,051	講師1人あたり生徒数【人】	459	403	402
教職員研修事業	128	教職員等研修会への参加のべ人数【人】	138	128	137
児童生徒対策指導事業	3,841	副読本等利用授業時間数(小学校・中学校1校あたりの合計)【時間】	240	305	306
教師用教科書・指導書等配布事業	20,183	教科書・指導書の充足数【充足数】	444	5,455	2,758
課題研究推進事業	1,000	研究成果発表校・園数【校・園】	3	2	2
学校図書館司書配置事業	959	学校図書館の図書貸出のべ冊数(環境整備のための司書派遣校平均)【冊】	3,037	3,017	2,106
教育用コンピュータ整備事業	52,907	コンピュータ1台あたりの児童生徒数【人/台】	8.7	8.4	8.4
		小学校1校あたりの1週間での児童のコンピュータ活用時間【時間】	8.5	8.4	5.7
新教育課程推進事業	30	新教育課程がスムーズに実施・推進されている市立幼稚園・小中学校数【校・園】	57	53	51

事務事業一覧

事業名称(確かな学力の定着と向上)

事務事業名	平成28年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成26年度	平成27年度	平成28年度
学力・教師力向上推進事業	1,660	研修講座参加のべ人数【人】	1,222	1,160	1,209
		学級生活満足群に位置する生徒の割合【%】	58.5	—	—
特別支援教育推進事業	7,792	専門性を身に付け、巡回相談等を担当できる教員数【人】	4	4	5
		発達障害のある市内児童が通級指導教室へ通級する割合【%】	18.6	19.0	19.0
小学校3、4年社会科副読本改訂事業	0	社会科副読本利用授業時間数(3、4年生の年間総時数)【時間】	160	175	173
語学指導員事業	21,926	中学校1校あたりの年間訪問日数【日】	62	62	57
		幼稚園・小学校の1校(園)あたりの年間訪問日数【日】	2.7	2.7	3.5
小学校英語活動推進事業	6,618	年間派遣のべ日数(1校あたり)【日】	29.4	20.3	26.6
土曜授業推進事業	—	ゲストティーチャーによる教育活動対象児童生徒数【人】	1,436	1,711	—
教育振興交付金事業	232	委託対象事業計画目標達成数【事業】	—	1	1
合計	354,551				

事務事業一覧

事業名称(豊かな心の育成)

事務事業名	平成28年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成26年度	平成27年度	平成28年度
修学旅行等引率事業	712	引率経費負担率【%】	99.2	97.6	98.8
「心の教室相談員」配置事業	10,291	1校あたりの年間相談件数【件】	104	103	85
学校防災・防災教育推進事業	3,146	事業成果を反映した取組を行った学校数【校】	18	—	14
適応指導教室事業	6,935	登校(部分登校を含む。)した児童生徒数及び次年度進学・就職した通級児童生徒数【人】	13	15	13
		登校、進学、就職率【%】	54.0	55	48.1
教育相談事業	3,144	充足率(相談終了率)【%】	61.9	71.4	67.2
いじめ防止対策事業	308	桑名市いじめ問題専門委員会に出席した人数【人】	7	12	12
		桑名市いじめ問題対策連絡協議会に出席した人数【人】	32	39	29
小中学校総合連携推進事業	900	中学校1年生から新たに不登校となった生徒数(中学校1年生)【人】	17	8	30
中学生職場体験事業	1,270	「職場体験活動が充実した活動であった」と回答した生徒の割合【%】	93.0	93.0	93.0
		「地域の中学校や中学生への関心が高まった」と回答した事業所の割合【%】	83.0	83.0	88.0
合計	26,706				

事務事業一覧

事業名称(健やかな体の育成)

事務事業名	平成28年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成26年度	平成27年度	平成28年度
クラブ活動等推進事業	3,670	補助金交付件数【件】	95	97	108
園児・児童・生徒健康診断事業	55,168	健康診断の受診率【%】	100	100	100
部活動エキスパート活用事業	572	上位大会への参加(上位入賞)率【%】	63.0	60.0	50.0
学校給食管理運営事業	271,544	小学校給食調理業務民間委託率(桑名地区)【%】	30.0	40.0	50.0
		無事故給食提供率【%】	100	100	99.98
学校給食施設維持補修事業	8,331	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	1
学校保健一般管理事務	42,704	ケガ等処置完了・医療費補填件数【件】	2,832	2,800	2,660
学校保健管理備品事務	975	健康診断に必要な機器の充足率【%】	100	100	100
多度学校給食センター学校給食管理運営事業	73,644	無事故給食提供率【%】	100	100	100
多度学校給食センター施設維持補修事業	1,520	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	0
長島学校給食センター学校給食管理運営事業	88,002	無事故給食提供率【%】	100	100	100
長島学校給食センター施設維持補修事業	3,144	施設維持管理上の不具合件数【件】	2	0	0
合計	549,274				

事務事業一覧

事業名称(地域とともにある学校づくり)

事務事業名	平成28年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成26年度	平成27年度	平成28年度
「地域の学校づくり」推進事業	12,047	保護者・スクールサポーター・地域の方々の事業参加者数【人】	29,500	24,754	22,920
合計	12,047				

事務事業一覧

事業名称(教育環境の整備)

事務事業名	平成28年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成26年度	平成27年度	平成28年度
小学校施設管理事業	192,901	保守点検検査実施率【%】	100	100	100
小学校施設維持補修事業	53,316	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	0
小学校トイレ改修事業	14,844	トイレ改修済校率【%】	63.0	66.7	66.7
小学校安全管理対策施設整備事業	0	門扉設置校率【%】	55.5	59.3	59.3
中学校施設管理事業	89,854	保守点検検査実施率【%】	100	100	100
中学校施設維持補修事業	20,432	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	0
中学校トイレ改修事業	0	トイレ改修済校率【%】	100	100	100
幼稚園施設管理事業	4,590	保守点検検査実施率【%】	100	100	100
幼稚園施設維持補修事業	6,545	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	0
校務用コンピュータ整備事業	19,018	校務用コンピュータ配備率【%】	81.8	81.7	80.0
		個人情報の漏えい件数【件】	0	0	0
私立学校等補助事業	4,290	補助金申請のあった私立学校に桑名市内から通っている生徒数【人】	910	950	967
		補助金申請のあった私立幼稚園に桑名市内から通っている園児数【人】	769	864	823
小学校一般管理運営事務	41,094	予算執行率【%】	99.8	96.5	94.8
小学校管理備品購入事業	8,917	備品納入校数【校】	27	27	27
小学校人事管理運営費	33,607	臨時用務員化率【%】	52.0	63.0	66.7
小学校要保護、準要保護就学援助事業	39,014	就学援助を受けた児童数【人】	596	609	596
		就学援助を受けた児童1人あたり援助額【千円】	62	64	65
中学校一般管理運営事務	15,088	予算執行率【%】	95.1	97.2	90.7
中学校管理備品購入事業	3,992	備品納入校数【校】	9	9	9
中学校人事管理運営費	12,012	臨時用務員化率【%】	44.5	66.7	77.8
中学校要保護、準要保護就学援助事業	34,670	就学援助を受けた生徒数【人】	421	415	399
		就学援助を受けた生徒1人あたり援助額【千円】	78	80	87
高等学校進学奨励事業	3,021	進学奨励金受給者数【人】	89	92	94
スクールバス運行事業(星見ヶ丘地区園児・多度幼稚園児)	2,908	バス利用率【%】	97.8	99.2	100
スクールバス運行事業(多度青葉小)	4,717	バス利用率【%】	97.4	99.3	100
スクールバス運行事業(長島幼稚園児)	5,187	バス利用率【%】	—	100	100
園児・児童・生徒安全対策事業	469	登下校(園)時の交通事故発生件数【件】	27	16	18
合計	610,486				

事務事業一覧

事業名称(人権教育内容の充実)

事務事業名	平成28年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成26年度	平成27年度	平成28年度
人権教育推進事業	1,736	研究大会・研究会・研修会の開催運営回数【回】	83	82	80
		研究大会・研究会・研修会の参加人数【人】	916	906	913
人権教育指導体制充実事業	3,227	人権フォーラム前後校内での話し合いを実施した小・中学校数の割合【%】	100	100	100
同和教育副読本「あゆみ」編集配付事業	829	授業で活用された学校数【校】	35	34	34
		同和教育副読本「あゆみ」を活用した割合【%】	97.0	94.4	94.4
合計	5,792				

事務事業一覧

事業名称(人権教育推進体制の充実)

事務事業名	平成28年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成26年度	平成27年度	平成28年度
人権教育啓発推進事業	1,107	人権に関する作文、ポスター、標語の応募数【件】	6,728	7,548	7,742
人権教育学習活動推進事業	1,140	保護者や地域の人を含めた話合いの実施回数【回】	7	7	9
		人権団体等の連携により講座等の活動をしている中学校ブロックの割合【%】	100	100	100
人権教育基本方針策定事業	—	桑名市人権教育基本方針周知研修会参加者の割合【%】	25.0	75.0	—
人権教育研究大会等参加事業	176	参加報告数(事務局分)【件】	11	21	12
教育集会所運営委員会運営事務	123	委員会で意見があった案件率【%】	100	100	100
教育集会所施設管理運営事業	5,610	施設(教室)利用者数【人】	14,022	13,377	13,074
教育集会所施設維持補修事業	788	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	11
教育集会所人権学習事業	4,381	小中高校生教室参加者数【人】	10,627	10,057	9,999
		一般市民対象・一般教養講座参加者数【人】	2,115	1,900	2,300
教育集会所人権啓発活動事業	1,646	啓発物品配布率【%】	100	100	100
		人権・同和問題学習会(長島)参加者数【人】	94	87	90
市民人権生活福祉講座事業	200	講座受講者数【人】	269	395	473
合計	15,171				

事務事業一覧

事業名称(国際理解教育の推進)

事務事業名	平成28年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成26年度	平成27年度	平成28年度
異文化理解の推進	—	異文化交流などの出会い学習を実施している学校の割合【%】	—	42.1	39.5
多様な言語との出会い	—	日本語以外の言語で校内案内等がされている学校の割合【%】	—	39.5	34.2
桑名の歴史・文化・自然の理解	—	出前授業を利用している学校の割合【%】	—	100	55.3
合計	—				

事務事業一覧

事業名称(英語教育の推進)

事務事業名	平成28年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成26年度	平成27年度	平成28年度
小学校英語活動推進事業	6,618	「日頃から生活の中で、英語を使おうとしている」と回答する児童の割合【%】	57	54	57
		英語キャンプへの参加人数【人】	44	74	107
合計	6,618				

事務事業一覧

事業名称(外国人児童・生徒の学校生活支援の充実)

事務事業名	平成28年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成26年度	平成27年度	平成28年度
外国人児童生徒教育推進事業	6,182	必要な指導・支援を受けた児童・生徒の割合【%】	100	100	100
		ガンバチアンド(学習会)への参加割合【%】	36.4	40.7	59.8
		進路ガイダンスへの中学生の参加割合【%】	35.0	65.2	54.3
国際化対応事業	—	必要な指導・支援を受けた児童・生徒の割合【%】	100	100	—
合計	6,182				

事務事業一覧

事業名称(文化財の保護・活用)

事務事業名	平成28年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成26年度	平成27年度	平成28年度
文化財保護審議会運営事務	239	審議案件【件】	0	2	1
文化財保存事業	18,283	文化財の指定件数【件】	0	2	0
埋蔵文化財発掘調査事業	5,652	発掘調査完了率【%】	100	78.5	86.3
埋蔵文化財整理所施設管理運営事業	1,607	埋蔵文化財発掘調査によって得られた諸資料調査報告件数【件】	50	50	40
合計	25,781				

I 総括意見

平成 29 年度（平成 28 年度事業）の桑名市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検評価報告書に対する意見を以下に示す。

- 1 点検と評価は、市民への説明責任を果たすとともに、次年度の改善につながる実効性のあるものでなければならない。点検・評価にあたっては、「なぜ自ら評価を行うのか」ということを意識し、同時に「今後どう活かすのか」という観点から行うことが重要である。
- 2 今年度の点検評価報告書から教育委員会自らの自己評価として実績評価の項目を設けていただき、わかりやすくなった。

過去に指摘させていただいた「費用対効果はどうか」「定量的に評価できる事業は、数値を示してはどうか」「単年度のみ表記ではなく、経年的に表記してはどうか」などの意見を反映していただき、非常にわかりやすい構成としていただいている。教育委員会の市民への説明責任を果たそうとする姿勢は、評価できるものである。

実績を数値のみで表記いただいているが、グラフなどを用いた方が視覚的にもわかりやすくなる場合もあることから、更なる工夫を期待したい。

- 3 成果と分析にある目標値や指標については、これらを設定した時から社会情勢やニーズも変化しており、また、外在的要因（財政上の問題や人的な問題など）によって事業遂行に支障をきたす場合もあるであろう。このような場合に教育現場がいかに努力を重ねても実績値を算出すると低い評価に陥ってしまうことがあることに鑑みて、定量的評価と併せて定性的評価の導入も検討しつつ、目標値や指標についても柔軟に見直すことも検討されたい。

II 個別意見

次に事業項目ごとに若干の意見を付する。

こどもを3人育てられるまち

- 1 就学前の教育・保育の充実

○日程調整に苦勞されたにもかかわらず、乳幼児教育推進協議会研修会の参加者が減少し、目標値に大きく届かなかったことは残念である。就学前教育に携わる者が参加しや

すい日程で研修を開催できるよう、更なる工夫をされたい。

2 確かな学力の定着と向上

○指標の分析欄③に夏期教職員研修講座参加者の校種別割合が、小学校：80%、中学校：9%、幼稚園：11%と大きく偏りがある。原因の分析と対策を講じられたい。

3 教育環境の整備

○この事業の実績値は、累積数になっていることから、誤解のないように注釈を加えることを検討されたい。

○累積数の場合、実績値の示し方を数値よりもグラフなどにした方がわかりやすい場合があるので検討されたい。

4 人権教育内容の充実

○目標値を達成しており高く評価できる。教育委員会の努力に対し、敬意を表する。

5 人権教育推進体制の充実

○成果と分析欄②において目標値を達成しており高く評価できる。リピーター率が高いということは、事業自体に魅力があることの証しである。課題もあると思うが、引き続き魅力ある内容で事業展開されたい。

世界に向けて開かれたまち

英語教育の推進

○小学校までの英語活動を楽しんでいる子どもが多くいるものの、中学校に進学し、「読み、書き」が必要になると英語が嫌いになってしまう子どもがいるのは、コミュニケーションという観点からではないかと感じることもある。小学校、中学校の英語教育に一貫性を持たせ、子どもたちが英語をコミュニケーションツールとして活用できる力を付けられるような教育を実践されたい。